



令和5年7月11日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第16号

本年度も防災給食を実施しました

平成30年7月豪雨災害（西日本豪雨）から、5年経ちました。呉市では7月6日を含む1週間を「呉市学校防災週間」としています。（本年度は7月2日～7月8日）

呉市では「防災教育の深化」に力を入れ、各学校では様々な防災教育を行っております。本校も5月15日（月）に、全校生徒及び全教職員がスクールバスに乗って、蒲刈島と下蒲刈島を巡りながら、呉市消防局蒲刈出張所消防隊の皆様から地域の災害リスクについて学んでいます。

そして、7月6日（木）には、「防災給食」を実施しました。

毎日、お昼の放送では広報委員が給食に関する「ひとロメモ」を読んでおり、当日は「呉市学校防災週間」について放送しました。ご家庭におかれましても防災時の食事が話題になっていただければと思います。



今から5年前の平成30年7月に起きた「西日本豪雨」により、呉市も大変な被害を受けて、たくさんの方の大切な命が奪われました。そして、その後しばらくは多くの地域で断水や道路の遮断、食料品の不足などにより、不便な生活が続きました。呉市では、令和2年度から7月6日を含む1週間を「呉市学校防災週間」として、「自分の命は自分で守る」子供の育成を目指して、防災についての学習をしています。

蒲刈学校給食共同調理場では、今年度も「防災給食」を実施しました。「アルファ化米」は、一度炊飯した米を乾燥処理して米の保存性を高めた食品です。アルファ化米は洗ったり、炊く前に水に漬けておく必要がなく、通常のお米より早く簡単に炊くことができます。今日は、調理場の大きな鍋で湯を沸かし、そこにアルファ化米を入れてゆっくり混ぜて温かいごはんを作りました。また、「乾パン」は水や火が使用できなくても食べることができ、防災食として利用されることが多いです。「カレースープ」は、常温で保存することができる食品を使って作っています。災害が起きてすぐの食事は、ごはんやパンなどの炭水化物ばかりになりがちです。肉や魚などのたんぱく質を多く含む食べ物が手に入らないことも考えられます。今日のカレースープには、うずら卵が入っています。うずら卵は缶詰やレトルトパウチになっているものがあります。うずら卵やツナ・大豆などの常温で保管できるものを日頃から用意しておくことも災害に備えるためにとても大切なことです。そして、「おさかなウインナー」や「バナナ」は、支援物資として届くことがある食品で、これらの食品は調理せず、そのまま食べることができます。

今日の給食を通して、みなさんの防災への意識が高まってくれることを願っています。



総合的な学習の時間「大人へのパスポートⅣ」 ～第1回進路説明会を実施しました～

7月3日（月）、3年生対象に第1回進路説明会を実施しました。今年度も多くの高等学校からオープンスクールの案内が届いており、既に申し込みをしている3年生は多くいます。公立高等学校の入学者選抜は昨年度大きく変更されました。広島県の15歳の生徒に身に付けさせたい力である「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」を評価するための「自己表現」が加わったこと、選抜Ⅰ（推薦入試）と選抜Ⅱ（一般入試）が同時に行われる一次選抜になったこと、調査書が簡略化されたこと、3年生の成績や当日の試験が重要視されるようになったことなど、大きく変わりました。

そのため、生徒の皆さんや保護者の皆様にとっては、何回説明を聞いても大変分かりにくいと思われます。第1回進路説明会では、入試制度を詳しく説明しましたが、分かりにくいことは先生に聞いていただければと思います。

また、面接練習も既に始まっています。説明会では、グループ形式の面接練習の様子をVTRで見ていただきました。今後も面接練習を継続し、入退室や面接官との対応だけでなく、質問に対する回答の内容が更に充実し、自分自身のことや自分の考えをしっかりと表現できることを目標にしていきたいと思います。もうすぐオープンスクールも始まります。また、夏休み中は大きく学力を伸ばすチャンスです。「継続は力なり」と言いますから、毎日コツコツ努力することが大切です。期待しています。

